

【(4) 授業の展開】

②ー5 「児童生徒が発言しやすくなるように配慮している」

《つまずきの背景》

C 記憶力の弱さ、E 性格や心理的な課題、J 言語表現の困難さ

《解説》

間違えることは恥ずかしいことではないということを念頭に置いた学級づくりに努めることで、子どもが何でも安心して言える雰囲気を作ることが大切です。

学級の中に、発言することに苦手意識がある子どもがいる場合には、書くことで自分の考えをまとめてから発言するようにすると、安心感が生まれ、発言に対して積極性も出てきます。書いた内容を教師が把握しておくことでその後の活動にも生かすことができます。記憶力が弱い子どもや、性格や心理的な課題がある子どもがいる場合には、ワークシート等を使って思考を整理し、それを見ながら発言してもよいことにしておく、安心してうまく発言できる場合があります。言語表現が困難な子どもの場合には、周りの子どものフォローを受けられるような体制を作ることが困難さを補うことにつながります。

書く活動を取り入れることで、配慮の必要な子どもの考えを意図的に取り上げることができ、自信につなげることができます。書く時間を意図的に確保することは、思考力や表現力、判断力の育成のためにも有効です。

【工夫点】

- ・ワークシートやノートに書いたものを基に発言するようにする。(小中高 工夫例 34)
- ・発言に小黒板(ホワイトボード)を利用し、様々な考えを整理分類する。(小中高)
- ・相談タイムを作り、周りの人に教えてもらってもよいこととする。(小中高)
- ・時間を区切って話し合いをさせ、発言しやすい状況にする。(中高)
- ・指名する場合には、あらかじめ子どもが順番を予想できるようにする。(高)

◆工夫例 34 「ワークシートやノートに書いたものを基に発言するようにする」

① 村人たちの前で、赤おにや青おににはどのような様子だったでしょう。

赤おに	青おに
※ げんこつでコッソん一つうちました。	ボカボカなぐれ。
※ コッソんと強くうつまねをしました。	「だめだめしっかりうつんだよ。」
※ 「いいから。早くにげたまえ。」	にげ出しました。
※ 「青くん、まてまて。いたくはないか。」と、心配しながらおいかけてました。	あわてたふりをして
	わざとほしらにひたいを
	コッソんとうちあてました。

② おにたちの様子を見ていた村人たちは、どのようなことを話していたでしょう。

あの赤おにには、なんてやさしいおになんだ。よし、お茶をのみに行くぞ。そしてみんなにつたえよう。

《国語(小学校3年生)》

発言する際に、事前にワークシートに書いておくと、子どもは発言しやすくなります。それでも発言できない子どもの場合は、子どもが書いている内容を教師がチェックしておいて、後からみんなに「こんなよいことを書いている」というように紹介すると満足感を得させることができます。書いていることを見ることで、子どもがどんなことを考えているか把握することができ、後からその内容を授業に生かすことが可能になります。

ワークシートの例(国語 ないた赤おに)

※ は子どもが書いた内容